

トピック ― 野菜の輸入動向 ―

平成24年の年間の野菜の輸入量は、286万トンとなり、過去最高だった平成17年の291万トンに次ぐ高水準となった。

類別に見ると、冷凍野菜が971千トンで1位、次いで生鮮野菜の947千トン、その他調整野菜の450千トン、トマト加工品の270千トンと続いている。

前年と比較すると、乾燥野菜を除いた全ての類別で増加となり、生鮮野菜、冷凍野菜、酢調整野菜は4年続けた増加、トマト加工品、その他調整野菜及び野菜全体は3年連続の増加になった。

また、過去10年間の増加率で見ると、トマト加工品が一番大きく、次いで、冷凍野菜、生鮮野菜の順になっている。

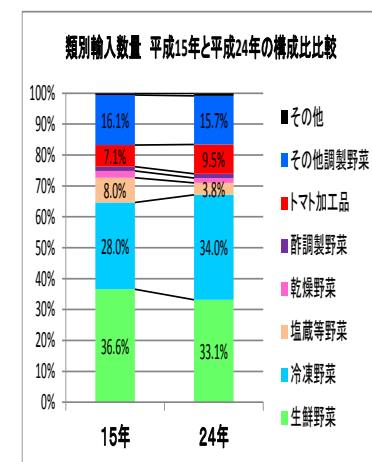
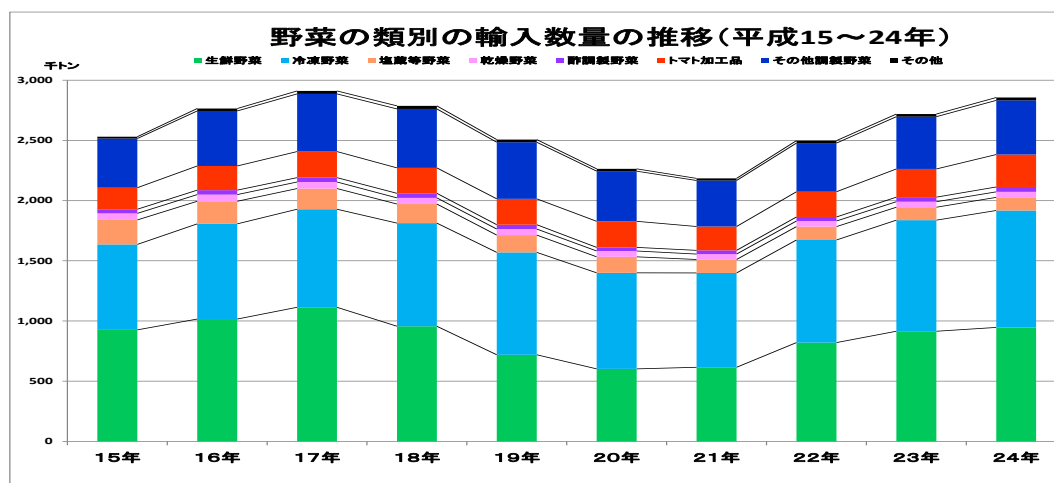
これらの類別について品目別に見ると、

① トマト加工品は、健康志向を反映し、混合野菜ジュースやトマトピューレ等が、安定して増加し、

② 冷凍野菜は、簡便化や低価格志向の影響を受けて、ほうれんそう、ブロッコリーやばれいしょ等が増加し、

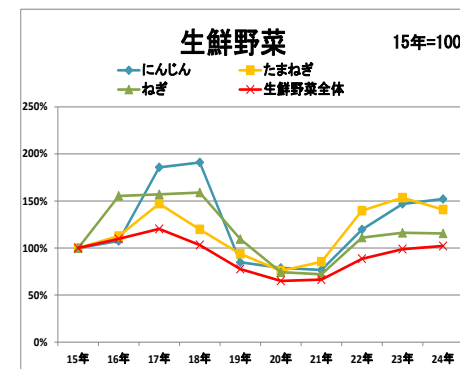
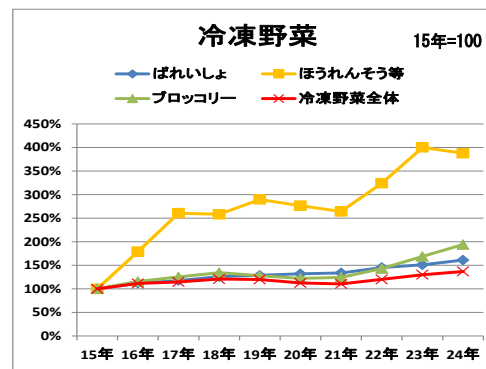
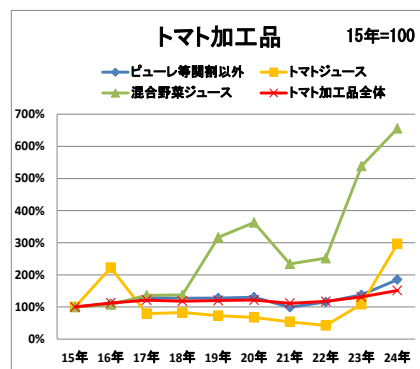
③ 生鮮野菜は、中国産の野菜に対する不安から、一旦は輸入が減少したものの、国産の不作等から、にんじん、たまねぎ等が増加に転じている。

今後は、円安、野菜輸入の大宗を占める中国の生産コストの上昇等の影響があるものの、健康志向や簡便化志向等を受けて、高水準の輸入が続くことが懸念される。



資料：ペジ探 (原資料) 財務省「貿易統計」

野菜の類別・品目別の増加率(平成15～24年)



注：輸入数量が多く、増加率の高い品目を抽出。

資料：ペジ探 (原資料) 財務省「貿易統計」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 村野、須藤、山田 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
 ◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はペジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
 ★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html に掲載しています。